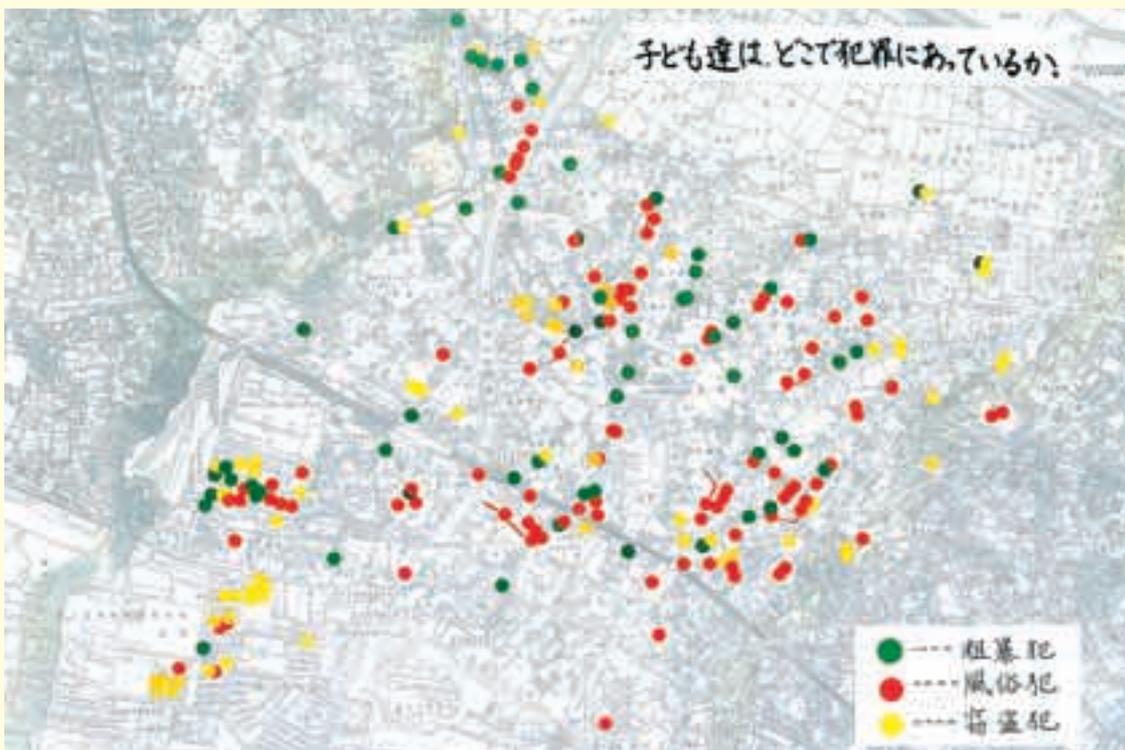


広げよう

第7号(2004.3)

コミュニティの輪

彩の国コミュニティ協議会会報



犯罪危険マップ (和光市地域子ども防犯ネット)



春日井市の地下道美術館



坂戸市の市民花壇 (石井新町)

主な内容

- P 2 安心・安全のまちづくりに向けて
和光市地域子ども防犯ネット
愛知県春日井市「春日井市安全なまちづくり協議会」
- P 6 花いっぱいのもちづくり 平成16年度国体開催に向けて
坂戸市の取組み
- P 8 彩の国コミュニティ協議会活動ダイジェスト

安心・安全のまちづくりに向けて

和光市地域子ども防犯ネット

子どもの笑顔願って

和光市地域子ども防犯ネット（山田実代表）は、主に小中学生の子どもを持つお母さん達が集まり、子どもを犯罪から守るまちづくりを目指しているネットワークです。小中学生に教えてもらった膨大なデータを積み上げて作る「犯罪危険マップ」は、子どもの安全や、地域と子どもの関わりなど、様々なことを考えるきっかけとなります。

きっかけは団地の育成会

子どもの連れ去り未遂事件やひったくりなど、身近なところで起こる犯罪が急増している昨今、県内でも多くの自治会やPTAなどが、地域のパトロールを始めています。

和光市でも、市内の団地で子どもが被害に遭い、団地の育成会（子ども会）の中に防犯委員会を立ち上げて子どもを守る活動をはじめたことが、地域子ども防犯ネット発足のきっかけとなりました。その後、活動の輪は、東武東上線和光市駅周辺の数校の学校へ、さらに、大阪の池田小学校の事件を契機として市内全域へと広がっていきました。

犯罪被害のアンケート

地域子ども防犯ネットの取組の特徴は、学区域内の児童と生徒を対象に犯罪被害のアンケートを行い、その膨大なデータに基づいて、地域全体で対策を考える点にあります。今回も、市内5つの小中学校で、小学4年生から中学3年生までの全児童と生徒1,694名にアンケートを行い、1,068件の有効回答がありました。

アンケートでは、子どもがいつ、どんな怖い目に遭ったかを聞くとともに、地図にその場所をマークしてもらいます。最も神経を使うのが子どものプライバシーを守ることで、県警の犯罪被害者相談セン

ターなどから助言を受けつつ、アンケートを匿名で実施することはもちろん、回答を提出する時も封をして回収箱に入れてもらうなど徹底しています。

この手法は、千葉大学の^{おさむ}中村攻教授（地域計画学）の理論を取り入れたもので、中村教授は既に、東京都江東区や葛飾区、千葉県松戸市など各地で和光市と同じアンケート調査を実施しています。



お母さんたちの一斉パトロール

4人に一人が犯罪に直面

アンケートから明らかになったのは、回答した子どもの24.8%、4人に1人が何らかの犯罪に遭っているという、驚くような事実でした。もちろん、これには「変なおじさんにおいかけられた」「露出狂にあった」など、幸い未遂に近かったものも含まれています。しかし、神戸連続児童殺傷事件の時も、

女の子に対する「水飲み場を教える」という声かけが殺人に発展した点をもみても、小さな危険を見逃すことはできません。

また、中には「トイレの個室に入れられそうになった」「若い男に車に乗せられそうになった」など、重大な犯罪に発展しかねない危険な目に遭っている例もありました。

地域で起こる子どもへの犯罪

アンケート結果をもとに作られたのが、この会報の表紙に掲載した犯罪被害マップ「子ども達はどこで犯罪にあっているか」です。子どもが犯罪に遭っている場所は、繁華街や暗い地下道に限りません。マップを見ると、ごく普通の住宅街や、団地の公園で犯罪が起こっているのです。

しかし、前出の中村教授が何百箇所という犯罪の発生現場に立って気づいたことは、犯罪者は犯罪を実行する場所を選んでいくという事実です。その場所が団地の北側に面していたり、樹木の陰になっているなど、地域の人々の視線が届きにくいといった要因が必ずあると言います。詳細は、中村攻著『子どもはどこで犯罪にあっているか』（晶文社、2000年）を御覧ください。



犯罪被害マップを囲むメンバー

地域ぐるみで子どもを守る

昨年10月、地域子ども防犯ネットの招きで講演した中村教授は、「子どもは日々地域の学校に通い、

地域で遊んでいる。その地域が実際には危険と背中合わせであるにもかかわらず、多くの大人が、今の時代コミュニティがなくても生きていけると考えている。それは錯覚であることに気づくべき」と述べています。

地域子ども防犯ネットでは今後、公民館などに犯罪被害マップを貼って、子どもがこんなにも危険にさらされているという実態を、地域の人々に知ってもらうことにしています。また、来年度には、保護者や学校関係者、自治会、市や警察など、地域の様々な人々に呼びかけて、実際に犯罪が起こった場所でフィールドワークを行い、その場所その場所での原因と対策を考えていくこととしています。

子どもを犯罪から守る対策に残念ながら決定的なものはありません。樹木を剪定して見通しを良くする、子ども110番の家を引き受けてもらう、街灯を増設する、警察や自治会、PTAでパトロールをしてもらうなど、様々なことを積み上げていくしかないのです。しかし、地域子ども防犯ネットでは、子どもの安全に向けて地域の大人が集まり、話し合い、できる対策を実施していく過程でコミュニティが再生され、それこそが子どもを犯罪から守るまちづくりにつながると考えています。

地域への思い

地域子ども防犯ネットは、お母さん達が自ら考え、行動しているグループです。様々な団体や機関とのネットワークで活動を続けていますが、資金面はもちろん、行政との連携の在り方など、自主的な活動ならではの悩みも多く抱えています。

その上、防犯という活動分野は、地道で成果も見えにくく、活動への動機を見出すことは難しいのではと感じられます。

それでも事務局長の待鳥美光さんは、「アンケートの自由意見欄に、地域の大人が子どもに対してあまりに関心という憂いが切々と書かれているものや、このようなアンケート活動への感謝の言葉がた

くさん書かれていた。メンバーを支えているのは、地域の大人として何かできることをしなくてはという気持ち」と活動に寄せる思いを語っていました。和光市地域子ども防犯ネットの、子どもの笑顔を願

い、地域の繋がりを取り戻すための終わりのない取組は、今後も続いていきます。

安全・安心のまち春日井市

市民が主役です

中部圏有数の中核都市として発展を続ける愛知県春日井市。防災や防犯といった地域の安全を市民自らが考え、行動していく取組で全国的に有名です。最近も、元空き巣犯を講師に招いたユニークな防犯講座の様子がテレビで放映されたのをご記憶の方も多いことでしょう。

どうして春日井市では、活発で優れた市民活動が展開されているのでしょうか？ 今回は、多くの市民ボランティアを輩出している春日井市安全なまちづくり協議会を訪ねて、その奥義を伺いました。

連携の核となる協議会

春日井市は、名古屋市の北東に隣接するベッタウンです。昭和40年代初めに10万人ほどだった人口は、名古屋駅から電車で23分という利便性から、次々とニュータウンの開発が進み、現在は30万人に迫っています。

同じ時期の埼玉県の人口は300万人と700万人。春日井市は本県と同じような、急激な都市化を経験しています。発展の一方で、地域の連帯感や地域意識が希薄になってゆく中、このまま放置すれば災害や犯罪に弱いまちになってしまうとの思いがありました。その危機感から、平成5年6月、各分野にわたる117団体が集まって、春日井市安全なまちづくり協議会が設立されました。

人気の市民大学

安全なまちづくり協議会では、平成7年に、防災や防犯など、地域の安全と安心をテーマとした市民大学「春日井安全アカデミー」を開校しました。アカデミーの基礎教養課程は毎年8月から12月に開講していて、防災コース、生活安全コース、子育てコースの3つのコースがあります。講師は、東京大学工学部の小出治教授など、いずれも第一人者の研

究者や弁護士を中心とした方々です。各コースとも90分7回のカリキュラムで、防災や防犯の分野をこれだけ集中的に学ぶ講座は、全国的にもほとんど類を見ません。

講座内容も、阪神・淡路方面を訪れ、震災被災者との交流を深めるといった実習や、実験も取り入れた、工夫の凝らされたものです。そのため、防災といった地道なテーマであるにもかかわらず、毎回定員を超える応募があります。

全ての講座を終えた受講生は、12月の卒業式で春日井市長から卒業証書を授与されます。

ボニターの誕生

アカデミーの基礎教養課程を修了した方は、専門課程、さらに、ボニター養成講座へと進み、すべての課程を修了すると市長から「ボニター」の委嘱を受けます。ボニターとはボランティアであり、提言や要望を行うモニターでもあるという意味の、春日井市オリジナルの言葉です。

平成10年に初めてボニターが誕生し、現在は184名が地域の安全リーダーとして活躍しています。その内容は、市の総合防災訓練で自主企画の救出救援デモンストレーションを行ったり、災害時に

役立つ自主防災マップの作製、各家庭を回って実施する簡易防犯診断「安・安診断」、登下校の子どもと一緒に歩く「児童見守り隊」など、自主企画が目白押しです。

こうした地域の防災を支える人づくりにつながった、優れた取組が評価され、平成9年には自治省消防庁（当時）から、第2回防災まちづくり大賞を受賞しました。

マップ作りから安全なまちづくりへ

また、アカデミーの卒業生からは、女性のボランティア組織「春日井安全・安心まちづくり女性フォーラム実行委員会」が誕生して、現在、34名のメンバーが活動しています。

女性フォーラム結成のきっかけは、平成10年度に行われた建設省（当時）による同じ名称の事業です。まちづくりに女性の視点を生かそうと、危険個所の点検や防災避難経路の調査に取り組み、調査結果をもとに、市への提言を行いました。

メンバーはその後も自主的に活動を続け、防災上の問題点を地域で共有することが大切との考えから、平成11年度には高齢者ヒヤリ地図の作成に取り組みました。

さらに、平成12年度には白山小学校区をモデル地区に定め、安全マップを作りました。マップづくりでは、まず、小学校児童、婦人会、町内会、老人会の方々に、交通や防犯、環境などの観点から、それぞれの安全マップを作ってもらいました。出来上がった地図には、老人会は行動範囲が限られている反面、子どもの活動範囲は校区全域にわたっていたり、町内会の大人は交差点で歩行者にヒヤリとするなど、団体ごとの特色が現れていて、メンバーが驚いたといいます。

地図を手に子どもと通学路を歩きながら「どこが危険だと思う？ どうすればよいと思う？」といった問いかけを重ねました。さらに、年代別の4種類の地図を女性フォーラムが重ね合わせるとともに、

子ども110番の家がある場所などのイラストを加えて作ったのが「白山小学校区安全マップ」です。この地図は、彩の国コミュニティ協議会会報第4号（2003年9月）の表紙にも掲載しました。

地域住民の方々と一緒に地図を作る中で、いろいろな問題点が明らかになりました。例えば、小学校のすぐ南側にある国道302号には地下道がありますが、暗く汚れて

いて、子どもたちは交通量が多く危険な国道を横断して通学していました。

女性フォーラムでは、子どもが安心して地下道を利用するためにはどうすればよいか調査や話し合いを重ね、地下道を明るくする「地下道美術館」を提案しま



地下道の入口に飾られている埴輪

した。提案は地域組織の白山校区コミュニティに受け入れられ、児童が地下道の壁いっぱいに壁画を描いたり、校区内の史跡「二子山古墳」にちなんだ埴輪のレプリカが地下道入口に飾られ、埴輪が微笑む通学路が実現しました。さらに、地域の方が交通当番として地下道の入口に立ったり、婦人会や老人会が地下道を清掃したりと、地域に活動の輪が広がっていきました。

女性フォーラムの活動はさらに発展し、平成13年度には、安全マップの作成を市内の37校区に拡げました。平成14年度からは、メンバーが小学校の総合的な学習の時間の講師となり、安全マップを使い、寸劇やワークショップを取り入れて、子どもの安全を守る授業を行っています。このような活動が全国的に注目され、平成15年4月、女性フォー

ラムは国際交通安全学会賞を受賞しました。

楽しく活動しています

防災や防犯の分野は、活動の成果が見えにくいと言われています。それなのになぜ、春日井市では、ここまでの活動が展開されているのでしょうか。安全なまちづくり協議会事務局の三ツ井健幸さんにその理由を伺ったところ「楽しく活動しているからです。楽しければ続けられます。」との答えが返ってきました。

ボニターや女性フォーラムのメンバーは、退職された方や、子育てを終えられた方が多いそうですが、PTAで活躍された方、自衛官だった方、消防士だった方、警官だった方など、いろいろな経歴の方がいます。経験豊富な方が集まって、いろいろな知恵を出し合い、喧喧諤諤と議論しますが、やる時はまとまって活動しています。

市役所では、三ツ井さんをはじめ、市民安全課の職員4名がほぼ専任で、まちづくり協議会の事務局を担っています。職員の中には、警察や消防から出向している方がいて、常時、専門的な助言ができる体制です。

しかし、事務局の役割は、活動に必要な物品や部屋の提供が主です。決して事務局主導の活動ではありません。

地域の安全に関心があり、何かしたいと思っても、専門的な知識もなければ受け皿もないため、活動できない方がほとんどです。そういった方に、組織という受け皿を提供し、ボニター養成講座などで市民の役割や、具体的にどういことを始めることができるかといったヒントを伝えることが、行政の役割なのだと言います。そこから、住民の多様で自発的な活動が花開いている、これこそが、春日井市におけるコミュニティ活動の姿です。

春日井から全国へ

全国に先駆けて、市民、行政、警察の協働による取組を進めている春日井市では、平成14年11月に全国安全都市市民サミットを、平成15年11月には全国安全都市首長サミットを開催して、全国の自治体に連携を呼びかけています。

そして春日井市では、これからも、無関心層を巻き込み、さらに幅広い市民の協力を得て、安心・安全のまちづくりを進めようとしています。

花いっぱいのもちづくり 平成16年度国体開催に向けて

花の香りに包まれた、花いっぱいのもち 坂戸市

「花いっぱいのもち・坂戸」これが、坂戸市のキャッチフレーズです。坂戸市では、従来から取り組んでいた花いっぱい事業をさらに拡充して、市民や企業、行政が協力した花のあふれる美しいまちづくりを進めています。そのきっかけとなったのが、平成4年に坂戸市コミュニティ協議会が花の種を配布した花のプラン事業でした。そして、今年度、市役所に設けられた「花の推進室」がまとめ役となり、市民が主役で花の美しさを共に感じ合う、花の魅力にあふれたコミュニティを築いています。ここでは、坂戸市の取組の数々を紹介しましょう。

庭を通じた語り合い

みなさんは、「オープンガーデン」という言葉を耳にしたことがありますか？

オープンガーデンとは、個人や団体の庭園などを一般の方に公開することで、1927年ごろイギリスで始まったと言われ、日本でも4、5年前から各地に広がりつつあります。

坂戸市ではガーデニングなどに関心のある個人の方や団体に、丹精込めて手入れをした庭を開放していただき、訪れた方々が花を楽しみながら交流を図ることができるオープンガーデンを、今年の4月から実施していきます。

行政が提唱し、住民と協働して実施するオープンガーデンは県内では初めてで、全国でも珍しいそうです。

現在、参加者は個人の方8名と12団体。今後、参加者を増やしていくとともに、参加者が公開したい日時や見学者が立ち入ってよい場所など、それぞれの実情にあわせたルールづくりを進め、1年を通して見学できるオープンガーデンを目指しています。

花のフリーマーケット

花のフリーマーケットは、その名の通り花専門のユニークなフリーマーケットです。場所は、「環境学館いずみ」の駐車場。参加者には、車1台分ほどのスペースが割り当てられます。販売される花は、すべて市内に住む方や団体が育てたものでどれも格安。また、ガーデニングにお勧めの花や購入した時期にすぐ植え付けられる花苗ばかりなのも特徴です。昨年の5月に初めて開催し、11月には2回目を開催しましたが、販売開始後あっという間に完売してしまいました。1回目と2回目を合わせると約1,200名もの方が参加し、人気の高さが伺えます。今後も、余っている花の苗を持ち寄って廉価で譲り合う、花のネットワークづくりを進め、交流の場としていくそうです。

花の香りに包まれたまちづくり

市民や商店などが手を携えて生活の中に花や緑を育くむとともに、賑わいを呼び込もうと進められているのが「花いっぱいのもち・坂戸」協賛店やアドバイザーです。現在、協賛店は2店舗。フラワーアレンジメントや寄せ植え講習会等を開催しています。また、アドバイザーには3名の方が登録して、講習会の講師として花づくりのアドバイスをするほか、市内に18か所ある市民花壇のコーディネーターとしても活躍しています。



協賛店でのPRパネル

花のコンクールや国体に向けて

坂戸市では、花と緑を育み、潤いのある花のまちづくりを市民みんなで進めようと、身近にある個人的な花壇やフラワーポットなどを表彰する「花いっぱいコンクール」や、小学校4年生から中学校3年生を対象とした「花の風景絵画コンクール」を実施し、地域に花の輪を広げています。

また、坂戸市は、今年10月に開催される「彩の国まごころ国体」の秋季大会ソフトボール（成年女子）の競技会場となっています。そこで、坂戸市では、1,000名もの花いっぱい運動ボランティアを募って、自宅で花を育ててもらったり、休耕地にコスモスを植える活動を始めています。そして、会場となる市民総合運動公園周辺や道路、公園などの花いっぱい運動にも積極的に取り組み、他県からの選

手回や観客の方々を、美しい花々でおもてなしする準備を進めています。

坂戸市では市民や企業、行政が共に手を取り合っ
て、花の魅力にあふれるまちづくりに取り組んでい
ます。平成16年度は、いよいよ彩の国まごころ国
体と第4回障害者スポーツ大会の開催の年。みなさ
んの地域でも、花の香りに包まれた、花いっぱいの
まちづくりに取り組んでみませんか。



公共施設職員への花作り講習会

彩の国コミュニティ協議会活動ダイジェスト

彩の国ごみゼロ運動への協賛

彩の国ごみゼロ運動への協賛

彩の国コミュニティ協議会では、平成16年度開
催の「彩の国まごころ国体」に向けた地域美化活動
を推進しています。

平成15年11月23日(日)に実施された和光
市での秋の清掃活動にも、彩の国コミュニティ協議
会オリジナルの黄色いウィンドブレーカーを着て参
加いたしました。

今年はいよいよ国体開催の年です！

出場選手や県外からのお客様を気持ちよくお迎え
するために、みんなで清掃活動に参加しましょ
う！！

防犯キャンペーンに参加

12月24日に草加市で、12月25日に川越市
で行われた防犯キャンペーンに参加して、道行く
人々にピッキングやひったくりへの注意を呼びかけ
ました。



防犯キャンペーン(草加駅前)

編集・発行

彩の国コミュニティ協議会
埼玉県県民生活課内

〒330-9301

さいたま市浦和区高砂3-15-1

TEL 048-830-2819

FAX 048-830-4750

ホームページ <http://www.pref.saitama.jp/A01/BQ00/community/com.htm>